



天野進吾が視る。語る。今日のできごと。まつりごと。

ホームページを見てください http://www.amano-shingo.info

静岡商、32年ぶりの甲子園出場を祝う

今年の夏の高校野球県大会は、シード校が早々に敗退、予想外の展開となつて、結局往年の名門、静岡商業高校が32年ぶりに甲子園に駒を進め、さらに一回戦を快勝しました。

実際、県大会の緒戦では、野球部誕生間もない静岡大成高校に辛勝、更には3回戦も延長の末の逆転勝ちと薄氷の連続でしたが、準決勝、決勝は見違えるほどの展開のなかで、甲子園切符を手にしたのでした。恐らくご年配の静岡OBには「目の黒いうちは無理か」と会話の中に出始めた昨今ですので、その喜びは痛いほど解りました。

しかし、私は、嘗ての常連「静岡」が32年ぶりの甲子園と聞いてつくづく、歳月の流れの速さを痛感したのであります。と同時に脳裡に浮かんだ「思い出」は12年前の私にとっては貴重な思い出の一場面でした。

平成6年4月、天皇后陛下の地方事情視察の一環で本県を訪ねられ、その際、県庁舎内で会食する機会に恵まれました。

しかも県側では、知事、県議長、市側では市議長と市長の私、都合4名が中央に両陛下を挟んでの会食は、前夜眠れなかったと言う知事の言葉通り張り詰めた空気に圧倒されて、言葉少なく始まりました。

そんな雰囲気の中、私は「和み」を摂るために敢えてユーモアを交えて話題づくりを努めました。

会話が弾みしばらくして、それまで聞く一方の役割であった皇后陛下が、会話の間をみて突然、鈴木和彦市議長に向つて「私の学

生時代、高校野球の静岡県の代表は静岡高か、静岡と聞いておりましたが、最近の静岡は如何ですか？」

実は鈴木議員は静岡のOB、夢想だにしないこの皇后陛下のご質問に日頃快活な「和さん」も流石に言葉に窮したところでした。そこで渡し舟として私は勝手に評論させて頂きました。

「勿論、未だ静岡は健在です。昨年の県大会の決勝も静岡対掛川西でしたが、石川知事が6月に誕生したばかりでしたので、知事のご出身の掛西に花を持たせました。」

勿論ジョークであることは両陛下の笑顔にも現れ、以後有意義な一時を過ごしたのでした。

文責 天野進吾



shingo's fellows 投稿 COLUMN 01

精神薬の怖さを知って

市民人権擁護の会 小柳津 正男
(株)小柳津清一商店社長

薬害問題が報道機関の狙上(そじょう)にしばしば上る今日、それでも未だ知られていない精神薬の副作用について「市民人権擁護の会」の会員として、この紙面をお借りして訴えたいと思います。

実は、精神科で処方される薬の中に危険な因子を持ちながら殆ど知らされることなく、投薬されている実態について報告させて頂きます。

これまで精神薬(特にうつ病)として極く一般的に使用されてきた「パキシル」は、今年になって厚生労働省から「自殺を引き起こす副作用のある薬品」としてその危険性を明記すべく製薬会社に義務づけたところです。

その結果、パキシルやSSRI(新しいタイプの抗うつ剤)の副作用については、ようやく最近になって病院や関係者に理解されはじめました。

私達が厚生労働省に陳情した折、同行した遺族から「知っていれば、娘や弟は自殺しなくすんだのに」と言う悲痛な訴えに、同行した仲間のもとより同省の職員も暫し落涙のひとときでした。

今日、ようやく医薬品ガイド等のホームページにはその旨が掲載されるようになりましたが、実際は殆ど知らされないまま服用されているのが実情であります。

若し、週刊誌に報じられているように例えば大阪池田小学校の殺傷事件もこれら抗うつ剤が引き金となつているとするならば、即刻国は英断をもって対処すべきと信じます。

本日、私は敢えて皆様にパキシル等の「抗うつ剤」が持つ副作用と危険性についてご報告させて頂きました。

丸子「吐月峰」の周辺

既に四半世紀も前になるが、阿刀田高の短編小説「ナポレオン狂」を読んでいる時、静岡人には馴染みのある「吐月峰」の文字に遭遇、しかし、その活字の横には「はいふき」とルビが振られていた。

「吐月峰」はご案内のように丸子の泉ヶ谷にある草庵、「灰吹き」とはタバコの吸殻入れのこと。この両者に何の関わりも見出せない私は、敢えていつもの習慣で「広辞苑」を引つ張り出した。

何時もながら感心することだが、「広辞苑」は何から何まで詳細に私達に説明してくれる。この時も「吐月峰」・・・①として静岡市丸子付近の地。連歌師宗長の草庵、吐月峰柴屋軒と命名。②として煙草盆の灰吹、と書かれている。

しかし、両者の関わりについては全く説明がない。そこで、いつものように柴屋寺を尋ね、また郷土史を紐解いて調べた結果、・・・戦国の大名今川氏が「駿府」を支配したのは氏親の時代、この頃の支配階級の人々の文化は「和歌」よりも「連歌」が一般的でした。

五七五七七の31文字は和歌ですが、連歌は先ず発句として五七五を詠い、次者が二句七七と引継ぎ、さらに次の歌人が同様に三句五七五

を詠う、こうして多数の歌人によって綿々と詠い続けていくのが連歌の特徴です。

ご案内のように連歌の師といえば、「宗祇」が第一人者ですが、この頃、島田の鍛冶屋の息子が家業を嫌い、京に上り、宗祇の弟子となつて大成し、「宗長」を名乗っていました。連歌を愛好する氏親は鞠子に草庵を作り、自らの連歌の師として宗長を迎えたのでした。

私のおぼろげな記憶ではこの草庵の借景を作るに当たつて、わざわざ京都から竹を移植したとのこと、またこの竹林の向うの峰から上る満月は恰も大地から吐き出される感じから「吐月峰」と名付けられたとのことでした。

時代は変わり、江戸幕府の誕生と共に東海道五十三次の宿場町が誕生、鞠子も多くの旅人で賑わうところとなりました。

当然のことながら、そこに新たな商売が生まれたのです。地域の人々は既に柴屋寺周辺を占拠していた竹林を利用して千筋細工や灰皿を作つてこれを商売したのです。

特に旅人には腰に吊下げる灰吹きは重宝されましたが、この時、村人は竹製の灰吹きに「吐月峰」の焼印を打つたのでした、そのため何時しか「吐月峰」は灰吹きの当て字として使われ今日に至つたのでした。

余談ですが、「急がば回れ」の諺は「宗長」の歌「武士のやばせの舟は早くとも急がば回れ瀬田の唐橋」から生まれた言葉と言われております。

一寸一言

私の雑記帳から

「東経と北緯」について

9月の初めといえば毎年台風が最も発生する季節です。

ところで気象庁が発表する天気概況のなかで、北緯00度、東経00度と表現しますが、その際の「緯度と経度」について静岡の歴史⑱で「賤機」と

は「倭文」を織る機の意味であると紹介しておりますが、その古代織物の「倭文」を織る際のたて糸を「経」、よこ糸を「緯」と書きました。今日でも「緯」は横糸、「経」は縦糸を表しております。ですから、世界地図を前に縦の線が経度、横の線が緯度となります。

彩時記

9月1日号

田んぼの稲穂が、日に日に黄金色に変わっていくこの頃。秋が、すぐそこまで来ています。秋のグルメの楽しみは、なんといっても新米。炊きたての白いごはんのおいしさは格別です。

ところで最近の米市場では、ちょっとした異変が起きています。今まであまり知名度がなかった北海道産の米の品質が向上し、米どころの人気ブランドに迫る勢いだとか。もちろん、品種改良や生産者の方々の努力のたまものなのですが、自然環境の変化も影響しているようです。地球温暖化の影響なのか、北海道の平均気温は以前に比べて上がっており、反対に降雪量は減っているそうです。つまり冬の期間が短くなって、米作りがしやすい環境になってきているらしいのです。反対に九州の米の産地では、猛暑や豪雨の影響で品質がいまひとつとか。遠い昔から、日本の気候にあっているとされてきた米作りの世界にも、環境問題が大きく関係しているようです。

秋の風物詩である新米がいつまでもおいしく食べられるようにと、願わずにはられません。

歴史講座のお知らせ

町内会の集会、サークル活動などに天野進吾を呼んでみませんか。嬉しいことに最近、グループや町内会などで『天野進吾』の歴史講座の要望が増えて参りました。このSHINGO-SCOPEの郷土史が好評ですのでその現れかもしれません。どうぞ、お気軽にお声掛けください。